

竹中半兵衛年表

西暦	和暦	年齢	出来事	
1544	天文	13	1	9月11日、父竹中重元(しげもと)、母杉山久左衛門女の子として生まれ、大野郡大御堂(現揖斐郡大野町公郷)で育てられる。
1558	永禄	元	15	重元、大御堂より兵を率いて不破郡岩手城の岩手弾正信冬を追放する。岩手4郡のほか福田、長松、栗原一帯6千貫を領す。
1559		2	16	重元、菩提山に砦を築く。
1560		3	17	重元、六角氏の要請により江北に侵入する。
1561		4	18	重元、再び江北に侵入し浅井氏と戦う。
1562		5	19	2月7日、重元没する。(64歳) 従来重元の卒去を永禄3年(1560年)とせるは5年の誤りなり。 半兵衛、家督を継ぐ。この年、安藤守就娘「阿古姫(とく)」と結婚。
1564		7	21	2月8日、義父安藤守就と謀り、弟久作ら主従18名で稲葉山城を乗っ取る。 8月、斎藤龍興に稲葉山城を返し、近江の浅井長政のもとで隠棲する。
1565		8	22	岩手に帰る。その後、栗原山に閑居する。 秀吉が説得に来る。
1568		11	25	この頃、織田信長に仕える。
1570	元亀	元	27	秀吉の与力であった半兵衛は、手筒山城、金ヶ崎城攻めに加わる。浅井長政の裏切りにより金ヶ崎より撤退する。半兵衛、殿軍となって奮戦する。 信長の命により長亭軒城(松尾山城)に赴き、樋口三郎兵衛(三郎左衛門)を説得して浅井氏家臣堀秀村(次郎)と樋口三郎兵衛を調略する。 この頃、半兵衛は重治の名を用いる。 秀吉の軍師として姉川の戦いに参加し、陣替えを献策する。 秀吉に従い、蜂須賀正勝らとともに近江の横山城を守る。
1571		2	28	蜂須賀正勝らとともに、浅井方佐和山城の磯野員昌を攻める。 磯野員昌は開城し退却する。 浅井方の宮部継潤を調略する。
1572		3	29	秀吉の留守中、横山城に浅井勢が再び襲来、横山城を守り窮地に陥った加藤光泰を救う。
1573	天正	元	30	浅井氏の小谷城攻めの際、先ず京極丸の攻略を秀吉に献策し、お市の方親子の救出に寄与した。重門生まれる。幼名は吉助、のち重政
1574		2	31	大名となった秀吉の長浜城下の建設に献策したと云われている。
1575		3	32	武田勝頼との長篠の戦いに、秀吉の与力として出陣した。 半兵衛は、武田勝頼の陽動作戦を見破り、信長の勝利に貢献した。
1576		4	33	安土城の築城工事に従事したと云われている。
1577		5	34	9月4日、播磨に向かう。 9月22日、長浜に戻る。松寿丸を伴ってくる。 10月、羽柴秀吉に従い、播磨攻略に向かう。 11月28日、半兵衛、官兵衛、蜂須賀で、上月城、福原城を攻める。 半兵衛は、この頃から病床に伏すことが多くなる。
1578		6	35	三木城の包囲戦で、秀吉を補佐する。 戦況報告のため京都に赴き、備前八幡山城主明石景親を調略した功により、信長から銀子百両を与えられる。 官兵衛が裏切ったと思った信長から、官兵衛の嫡子松寿丸を殺すように命じられるが、半兵衛は自分の領地の岩手に匿う。 秀吉に従い京都に行き、その地で療養する。
1579		7	36	3月、病をおして播磨平井山の三木城包囲陣に戻る。 6月13日、陣中で没する。